

発議第26号

つくばエクスプレスの抜本的な安全性と混雑緩和を求める決議について

上記の議案を別紙のとおり、流山市議会会議規則第14条第2項の規定により提出します。

平成22年10月4日提出

提 出 者

つくばエクスプレス沿線整備と新川耕地・
周辺特別委員会委員長 関 口 和 恵

つくばエクスプレスの抜本的な安全性と混雑緩和を求める決議

平成17年8月に開業したつくばエクスプレスは、1日の平均輸送人員は、平成17年度・約15万人、19年度・約23.4万人、21年度・約27万人を達成し、平成22年5月は29万人を上回る状況である。

そのような中、首都圏新都市鉄道株式会社は、積極的な各種安全対策と混雑緩和策として、数度に渡りダイヤ改正等を行ってきた。現在、ピーク時は1時間あたり20本を運転しているが、ほぼ限界に達していると聞いている。

ちなみに、混雑率は、平成17年度・109%、19年度・149%に対し、21年度・152%と急激に上昇している。

流山おおたかの森駅・南流山駅では、平成22年5月、全20駅の中で3番目・4番目の乗降客の多さである。それぞれ東武野田線・JR武蔵野線と交差することから、朝のラッシュ時には、電車を1本見送らなければ乗車できない状態にあり、特にホームや階段などの通路の狭い南流山駅では、安全性の面から限界に達している。

更に、流山市内の沿線整備は、4施行地区約640haの沿線整備事業が本格化しており、交通インフラの整備とともに更に人口の増加が見込まれ、今後も当駅利用者が増加し、さらなる混雑悪化が想定される。

特に、首都圏新都市鉄道株式会社は、開業以来3年目となる平成20年度決算で、営業収支が約4億円の黒字となっている。平成22年度からは、建設に伴う長期借入金約7,000億円の償還金を差し引いても、黒字を出せる見込みと聞いている。

故に、首都圏新都市鉄道株式会社は、経営面を考慮しつつ、利用者の更なる安全性や快適性及び混雑緩和の要望に応え、快速電車停車駅から順次ホームの延長と車両の8両編成計画の実施をすることを強く要望する。

記

- 1 国及び首都圏新都市鉄道株式会社は、つくばエクスプレスの更なる安全性と混雑緩和を図るため、快速電車停車駅から順次ホームの延長と車両の8両編成計画の実施に向け、積極的に努力すること。

以上、ここに決議する。

平成22年10月4日

千葉県流山市議会

送付先

衆議院議長 横路 孝弘 様

参議院議長 西岡 武夫 様

内閣総理大臣 菅 直人 様

国土交通大臣 馬淵 澄夫 様

東京都知事 石原 慎太郎 様

埼玉県知事 上田 清司 様

茨城県知事 橋本 昌 様

千葉県知事 森田 健作 様

首都圏新都市鉄道(株) 高橋 伸和 様